

消 防 团

# 1 消 防 団 の 沿 革

## 自治体消防発足後

昭和23年	6月	本部及び13分団、配置定員948人の団員を以て組織され、手曳ガソリンポンプ25台と腕用ポンプ10台を配置した。
昭和26年	4月	多家良、勝占両村の合併により、2消防団を本市消防団13分団)に編入し15分団、903人の団員をもって編成した。また、同年多家良分団に三輪ポンプ車1台を配置し、渭東分団の手曳きガソリンポンプを三輪ポンプ車に改装した。
昭和27年	4月	加茂名分団(鮎喰)、加茂分団(矢三)に手曳きガソリンポンプをそれぞれ1台配置した。また、富田分団及び佐古分団の手曳きガソリンポンプを三輪消防車に改装した。
昭和28年	2月	全国優良消防団として日本消防協会長から表彰状と表彰旗を授与された。
〃	3月	勝占分団に小型消防車(ダットサン)を消防署より移管した。
昭和30年	1月	新居町(改め不動町)、入田村、同2月上八万村、同年3月川内村の合併編入により4分団増加19分団制となり、団員数1,473人をもって編成する。
〃	6月	津田分遣所を設置し、消防ポンプ自動車(キャリア)1台を配置した。
〃	10月	八万分遣所を設置し、三輪消防ポンプ自動車を新調配車した。
昭和31年	2月	渭東分団にジープ級消防ポンプ自動車を新調した。
昭和32年	2月	沖洲分団にジープ級消防ポンプ自動車を新調した。
〃	5月	渭東、渭北、佐古、東富田の各分団に分遣所を設置した。
昭和33年	3月	陸上移動無線局5局(佐古、渭北、東富田、津田、八万分遣所)を増設した。
〃	9月	第2回 徳島県消防操法競技大会 準優勝(沖洲分団)
昭和34年	3月	渭東分遣所に無線局を増設した。
〃	4月	沖洲分団に分遣所を設置した。
〃	9月	第3回 徳島県消防操法競技大会 優勝(沖洲分団)
昭和37年	4月	昭和分団に消防ポンプ自動車(トヨタ・A2級)1台を新調した。
〃	12月	佐古分団に消防ポンプ自動車(トヨタ・A2級)1台を新調した。
昭和38年	12月	渭北分団に消防ポンプ自動車1台を新調した。
昭和41年	10月	応神村の合併により消防団を本市消防団に編入し、21分団1,635人の団員をもって編成する。
昭和42年	1月	名東郡国府町の合併により消防団を本市消防団に編入し、22分団2,084人の団員をもって編成する。
〃	2月	渭東分団に消防ポンプ自動車1台を新調した。
〃	6月	八万分遣所を廃止した。
昭和43年	1月	消防団整備統合を実施し、従来22分団、2,084人を19分団(内町、新町、水上各分団を廃止)1,189人とする。
昭和44年	10月	消防ポンプ自動車1台を購入し、沖洲分遣所に配置した。
昭和45年	3月	消防ポンプ自動車1台を購入し、八万分団二軒屋班に配置した。
昭和48年	3月	消防ポンプ自動車1台を購入し、加茂分遣所に配置した。
〃	4月	加茂分遣所を開発発足する。消防団整備計画に基づき団員定数1,189人を1,163人とする。

昭和49年	3月	消防ポンプ自動車1台を購入し、上八万分遣所に配置した。
〃	6月	消防ポンプ自動車1台を購入し、津田分遣所に配置した。
〃	7月	日本消防協会から小型動力ポンプ及び積載車各1台の寄贈を受け、入田分団に配置した。
〃	8月	小型動力ポンプ1台を購入し、国府分団延命班に配置した。
〃	10月	津田分遣所を改築した。
〃	11月	応神分遣所を開設発足した。
昭和50年	4月	消防団整備計画に基づき団員定数1,163人を988人とする。
昭和51年	3月	八万分遣所を開設発足した。
〃	4月	消防団整備計画に基づき団員定数988人を850人とする。
〃	5月	佐古分遣所を改築した。
〃	6月	北井上分遣所を開設発足した。
昭和51年	7月	消防団整備計画に基づき団員定数850人を750人とする。
昭和52年	3月	多家良分遣所を開設発足した。
〃	〃	消防ポンプ自動車1台を購入し、多家良分遣所に配置した。
〃	5月	沖洲分遣所を改築した。
〃	7月	消防団整備計画に基づき団員定数750人を711人とする。
昭和53年	2月	消防ポンプ自動車2台を購入し、佐古分遣所及び東富田分遣所に配置した。
〃	9月	渭北、内町西部防火防災協力会から超短波無線電話機（車載1台）の寄贈を受け、渭北分遣所に配置した。
〃	12月	渭北分遣所を改築した。
〃	〃	消防ポンプ自動車1台を購入し、渭北分遣所に配置した。
昭和54年	2月	消防ポンプ自動車1台を購入し、川内分遣所に配置した。
〃	7月	川内分遣所を開設発足した。
〃	10月	団員定数711人を649人とする。
〃	11月	消防ポンプ自動車2台を購入し、北井上分遣所及び加茂名分団に配置した。
昭和55年	6月	加茂名分遣所を開設発足した。
〃	11月	消防ポンプ自動車2台を購入し、応神分遣所及び昭和分団に配置した。
昭和56年	4月	団員定数649人を640人とする。
〃	11月	多家良分団洪野班詰所を改築した。
〃	12月	消防ポンプ自動車3台を購入し、渭東分遣所、入田及び不動分団に配置した。
昭和57年	4月	入田及び不動分遣所を開設発足した。
〃	5月	東富田分遣所を改築した。
〃	9月	上八万分遣所を増築した。
昭和58年	8月	小型動力ポンプ1台を購入し、八万分団に配置した。
昭和58年	8月	小型動力ポンプ1台を購入し、多家良分団に配置した。
昭和59年	11月	消防ポンプ自動車1台を購入し、沖洲分団に配置した。
昭和60年	8月	小型動力ポンプ1台を購入し、勝占分団東部班に配置した。
〃	12月	消防ポンプ自動車2台を購入し、八万分遣所、西富田分団に配置した。
昭和61年	3月	八万分団長谷班詰所を改築移転した。
〃	10月	小型動力ポンプ積載車1台を、勝占分団東部班に配置した。
昭和62年	8月	消防ポンプ自動車1台を購入し、加茂分遣所に配置した。
〃	12月	国府分団延命班詰所を移転新築した。

昭和63年	7月	小型動力ポンプ積載車1台を購入し、八万分団長谷班に配置した。
昭和63年	8月	(財)日本消防協会から小型動力ポンプ付積載車1台の寄贈を受け国府分団延命班に配置した。
〃	〃	消防ポンプ自動車2台を購入し、上八万分団(CD-I、4WD)、津田分団(CD-I)に配置した。
〃	9月	分団招集サイレン吹鳴遠隔装置を勝占分団中部班に設置した。
〃	〃	第16回 徳島県消防操法競技大会 優勝(上八万分団)
〃	12月	超短波無線機(車載6台)を購入し、消防団に配置した。
〃	〃	各分団にファクシミリを配置した。
平成元年	3月	分団招集サイレン吹鳴遠隔装置を八万分団長谷班、勝占分団東部班、多家良分団渋野・飯谷班、国府分団延命班に設置した。
〃	〃	消防ポンプ自動車(CD-I、4WD)1台を購入し、多家良分団に配置した。
〃	〃	小型動力ポンプ積載車1台を購入し、多家良分団渋野班に配置した。
平成元年	4月	団員定数640人を560人とする。
〃	〃	消防団員の定年制を導入し、役員の任期も規定した。
〃	〃	分遣所制度の改革により、分遣所職員を消防局に引き揚げ、分団招集サイレン吹鳴遠隔装置、ファクシミリ、無線受令機、ポケットベルを整備した。
平成元年	9月	消防ポンプ自動車(CD-I、4WD)1台を購入し、勝占分団中部班に配置した。
平成元年	11月	超短波無線機(車載4台)を購入し、入田、川内、応神及び国府分団に配置した。
平成2年	3月	勝占分団東部班詰所を改築した。
〃	〃	勝占分団詰所を改築した。
〃	9月	消防ポンプ自動車(CD-I)2台を購入し、佐古及び東富田分団に配置した。
〃	11月	超短波無線機(車載2台)を購入し、多家良及び不動分団に配置した。
平成3年	3月	渭東分団詰所を改築した。
〃	〃	昭和分団詰所を改築した。
〃	11月	超短波無線機(車載2台)を購入し、八万及び加茂分団に配置した。
〃	12月	消防ポンプ自動車(CD-I)1台を購入し、川内分団に配置した。
平成4年	2月	西富田分団詰所を改築した。
〃	7月	小型動力ポンプ積載車1台を購入し、多家良分団飯谷班に配置した。
〃	9月	消防ポンプ自動車(CD-II)1台を購入し、渭北分団に配置した。
〃	〃	超短波無線機(車載2台)を購入し、津田及び上八万分団に配置した。
平成5年	9月	活性化問題検討委員会を設置し、平成6年3月、消防団長に検討結果を報告した。
平成6年	7月	第19回 徳島県消防操法競技大会 準優勝(川内分団)
平成7年	7月	ふるさと消防団活性化助成事業により、消防団員手帳を作成し団員に対し交付した。
〃	10月	消防団活性化対策として消防無線受令機22台を購入し、各分団(八万分団を除く。)に各1台配置した。
〃	11月	超短波無線機(車載)を購入し、加茂名分団に配置した。
〃	〃	ふるさと消防団活性化助成事業により、冊子「がんばれ消防団」を作成し、市民に対し配付した。
平成8年	4月	定年制度を変更し、団員の定年を60歳、班長以上の定年を65歳とした。
〃	10月	消防団活性化対策として消防無線受令機19台を購入し、各分団に配置した。
〃	11月	消防ポンプ自動車(CD-I)2台を購入し、国府分団及び加茂名分団に配置した。

平成 9年	4月	作業帽の周章の統一を図った。
〃	8月	資機材及び装備品の点数制度を導入した。
平成 9年	9月	盛夏服の半袖を導入した。
平成10年	1月	消防団活性化対策として消防無線受令機19台を購入し、各分団に配置した。
〃	〃	消防ポンプ自動車（CD-I）を購入し、応神分団に配置した。
〃	3月	沖洲分団詰所を移転新築した。
〃	9月	ポケットベルを団本部及び各分団に合計282台配置し、消防団員招集システムの整備を図った。
平成11年	3月	多家良分団詰所を移転新築した。
〃	10月	日本損害保険協会から消防ポンプ自動車（CD-I）の寄贈を受け、昭和分団に配置した。
平成12年	4月	渭東分団詰所を福島一丁目9番5号へ移転新築した。
〃	7月	第22回 徳島県消防操法競技大会 第6位（国府分団）
〃	9月	消防ポンプ自動車（CD-I）を購入し、渭東分団、不動分団、入田分団に配置した。入田分団については、山間部用に4WD車を配置した。
平成13年	3月	加茂分団詰所を移転新築、多家良分団飯谷班詰所を改築した。
平成14年	3月	入田分団詰所を改築した。
平成15年	3月	多家良分団洪野班詰所を移転新築した。
〃	5月	本市で初めて加茂分団に女性消防団員1人を任用した。
平成15年	9月	活動帽をアポロキャップに変更し、全分団員に配備した。
〃	11月	消防ポンプ自動車（CD-I）1台を購入し、沖洲分団に配置した。
平成16年	1月	優良消防団として機関表彰を受け、表彰状と表彰旗を授与された。
〃	6月	団員114人を増員し、団員定数674人（うち副団長2人及び班長17人を増員）とする
〃	10月	新規格の活動服に変更し、全分団員に配付した。
平成17年	2月	災害対応に係る感謝状を県知事から贈呈された。
〃	〃	消防団地域活動表彰（特別推薦）を受け消防庁長官から表彰状を授与された。
〃	6月	消防分団装備の充実強化を図るため地域特性を配慮し、人命救助用資機材及び水難救助用資機材を配置した。
〃	12月	消防ポンプ自動車（CD-I）を購入し、八万分団に配置した。
平成18年	2月	全国優良消防団として日本消防協会長から表彰状と表彰旗を授与された。
〃	6月	消防団招集メールシステムを導入した。
〃	11月	川内分団詰所を移転新築した。
〃	12月	消防ポンプ自動車（CD-I）を購入し、西富田分団に配置した。
平成19年	9月	渭北分団詰所の耐震補強工事が完了した。
平成20年	3月	津田分団詰所を移転新築した。
〃	4月	定年制度を変更し、団員の定年を65歳とした。
〃	〃	徳島市消防団協力事業所表示制度の運用を開始した。
平成21年	3月	健康促進ビデオ制作の協力者として日本消防協会長から表彰状を授与された。
〃	12月	勝占分団東部班に小型動力ポンプ付積載車を更新配置した。
平成22年	3月	上八万分団詰所を移転新築した。
〃	12月	消防ポンプ自動車（CD-I）を購入し、加茂分団に配置した。
平成23年	3月	応神分団詰所を新築した。
〃	12月	八万分団長谷班、国府分団延命班に小型動力ポンプ付積載車を更新配置した。

平成24年	3月	消防ポンプ自動車（CD-I）を購入し、上八万分団に配置した。
〃	〃	国府分団詰所を新築した。
〃	6月	地震・津波発生時の行動基準を策定した。
平成24年	11月	消防ポンプ自動車（CD-I）を購入し、津田分団に配置した。
平成25年	3月	昭和分団詰所を新築した。
平成25年	12月	消防ポンプ自動車（CD-I）を購入し、多家良分団に配置した。
平成26年	4月	団員、班長、部長、副分団長の年報酬を引き上げた。
〃	〃	退職報償金額を引き上げた。
平成27年	2月	消防ポンプ自動車（CD-I）を購入し、勝占分団に配置した。
平成27年	3月	八万分団詰所を移転新築した。
平成27年	4月	団本部に広報啓発班（さくら連）を設置し運用を開始した。
〃	〃	年報酬及び出勤費用弁償を個人払いに変更した。
〃	11月	消防ポンプ自動車（CD-I）を購入し、佐古分団及び東富田分団に配置した。
平成28年	4月	出勤費用弁償額を500円増額するとともに、支出項目を拡大した。
〃	〃	新規格の活動服に変更し、全分団員に配布した。
〃	6月	地震・津波発生時の行動基準を改正し更新した。
〃	7月	第30回 徳島県消防操法大会第4位（応神分団）
〃	10月	消防ポンプ自動車（CD-I）を購入し、川内分団に配置した。
平成29年	2月	不動分団詰所の改修工事が完了した。
〃	9月	加茂名分団詰所を移転新築した。
〃	11月	消防ポンプ自動車（CD-I）を購入し、渭北分団に配置した。
〃	11月	小型動力ポンプ付積載車を購入し、多家良分団飯谷班に配置した。
〃	12月	アポロキャップのデザインを一新し、全分団員に配布した。
平成30年	4月	機能別団員制度の運用を開始し、条例定数を674人から774人に増員、基本団員を674人、機能別団員を100人とした。
〃	〃	徳島市学生消防団活動認証制度の運用を開始した。
〃	7月	機能別団員用アポロキャップを100個整備した。
〃	8月	機能別団員活動用ベストを100着整備した。
〃	9月	先芯及び踏み抜き防止板入りの防火長靴を整備（全分団員への整備2カ年計画の1年目）
〃	12月	佐古分団詰所の改修工事が完了した。
〃	〃	上下型防火衣を各分団及び各班に整備（5カ年で【230着】整備計画の1年目）
平成31年	2月	消防ポンプ自動車（CD-I）を購入し、加茂名分団及び国府分団に配置した。
〃	3月	団本部に総務省消防庁無償貸付車両（救助資機材搭載型消防ポンプ自動車 CD-I）を配置した。

## 2 主たる消防団行事

### 平成 30 年

4月 2日	正副団長会
〃	臨時定例代議員会
4月23日	定例代議員会
5月～10月	実務訓練(延べ18回)
5月20日	水防訓練
6月5日	危険物流出・火災消防訓練
6月15日～30日	災害危険箇所調査
6月17日	新任団員訓練
6月22日	臨時正副団長会
〃	定例代議員会(正副分団長会)
7月10日～12日	普通救命講習
8月～10月	「津波・地震発生時の行動基準」研修会
8月17日	正副団長会
〃	定例代議員会
8月26日	S-KYT研修
10月22日	臨時正副団長会
〃	定例代議員会
11月4・17・25日	普通救命講習
11月12日	子供消防カーニバル
12月4・5日	礼式訓練
12月19日	正副団長会
〃	定例代議員会(正副分団長会)
12月26日～30日	年末特別警戒

### 平成 31 年

1月6日	平成31年徳島市消防出初式
1月25日	文化財消防訓練(瑠璃山 真福院 井戸寺)
2月1日	分団事務研修
2月19日	定例代議員会
3月1日～7日	春季火災予防運動
3月3日	林野火災消防訓練(眉山山頂駐車場付近山林)
3月10日	平成31年徳島市消防表彰式

### 3 消防団員の階級別定員及び実員

(平成31年4月1日現在)

種別 分団名	団長		副団長		分団長		副分団長		部長		班長		団員		計		
	定員	実員	定員	実員	定員	実員	定員	実員	定員	実員	定員	実員	定員	実員	定員	実員	
																	うち 女性
団本部	1	1	5	5									100	39	106	30	45
佐古					1	1	2	2	2	2	3	3	20	20	28	2	28
東富田					1	1	2	2	2	2	3	3	20	9	28	1	17
西富田					1	1	2	2	2	2	3	3	20	20	28	4	28
昭和					1	1	2	2	2	2	3	3	20	20	28	2	28
渭東					1	1	2	2	2	2	3	3	20	17	28	4	25
沖洲					1	1	2	2	2	2	3	3	20	16	28	1	24
渭北					1	1	2	2	2	2	3	3	20	17	28	1	25
津田					1	1	2	2	2	2	3	3	20	20	28	2	28
加茂名					1	1	2	2	3	3	4	4	30	29	40	-	39
加茂					1	1	2	2	2	2	3	3	20	20	28	3	28
八万					1	1	2	2	3	3	4	4	30	30	40	-	40
勝占					1	1	2	2	3	3	4	4	30	26	40	1	36
多家良					1	1	2	2	4	4	5	5	36	34	48	2	46
不動					1	1	2	2	2	2	3	3	24	17	32	1	25
入田					1	1	2	2	2	2	3	3	24	22	32	-	30
上八万					1	1	2	2	4	4	5	5	36	36	48	-	48
川内					1	1	2	2	4	4	5	5	36	36	48	-	48
応神					1	1	2	2	3	3	4	4	30	24	40	-	34
国府					1	1	2	2	4	4	5	5	36	29	48	-	41
計	1	1	5	5	19	19	38	38	50	50	69	69	592	481	774	54	663



## 4 消防団員の報酬・費用弁償・交付金

区分	単位	金額（円）	摘要	
報酬	団長	100,000	年2回に分割し支給する。	
	副団長	86,000		
	分団長	66,000		
	副分団長	45,500		
	部長	37,000		
	班長	37,000		
	団員	36,500		
	(機能別団員)	6,000		
費用弁償	(基本団員)	火災	4,000	火災の鎮圧防ぎょその他火災による被害の軽減のための業務（4時間を超えるときは4時間を超える4時間まで毎に400円加算）
		水防	4,000	水害の防ぎょその他災害の被害の軽減のための業務（加算額は上記に同じ）
		広報啓発・会議	4,000	市長が必要と認める広報啓発活動に従事し、または市長が必要と認める会議に出席した場合（加算額は上記に同じ）
	(機能別団員)	大規模災害	2,000	大規模災害時の避難所運営「訓練、研修を含む。」支援業務（4時間を超えるときは4時間を超える4時間まで毎に200円加算）
		広報啓発・会議	2,000	市長が必要と認める広報啓発活動に従事し、または市長が必要と認める会議に出席した場合（加算額は上記に同じ）
		(機能別団員)	2,000	市長が必要と認める広報啓発活動に従事し、または市長が必要と認める会議に出席した場合（加算額は上記に同じ）

### 交 付 金

区分	金額（円）	摘要
消防団運営交付金	年額 1,277,000円	消防分団運営交付金 366,000円
		消防団運営協議会運営交付金 911,000円
消防分団活動交付金	年額 8,160,000円	19分団に年2回分割し交付する。

## 5 消防団員年齢・階級状況

(平成31年4月1日現在)

階級別 年齢別		団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	計
18	歳								-
19	歳							6	6
20	歳							14	14
21	歳							12	12
22	歳							7	7
23	歳							4	4
24	歳							3	3
25	歳						1	2	3
26	歳							5	5
27	歳							3	3
28	歳							1	1
29	歳						1	8	9
30	歳							7	7
31	歳							2	2
32	歳							7	7
33	歳					1		6	7
34	歳					1	1	5	7
35	歳						2	26	28
36	歳						1	17	18
37	歳				1		1	17	19
38	歳						1	13	14
39	歳				1		1	10	12
40	歳					1	2	19	22
41	歳						1	21	22
42	歳		1			1	3	20	25
43	歳						3	15	18
44	歳					1	3	23	27
45	歳						2	21	23
46	歳				1	3		21	25
47	歳				2	2	5	18	27
48	歳				2	1	1	17	21
49	歳			1	1	6	8	17	33
50	歳			1	1	1	2	14	19
51	歳			1	1	6	3	9	20
52	歳				2	2	3	8	15
53	歳				2		2	15	19
54	歳		1		2	4	5	8	20
55	歳				2	4	2	7	15
56	歳		1	2	2	2	3	5	15
57	歳				3	3	2	7	15
58	歳					5		5	10
59	歳			2	3	2	3	13	23
60	歳		1	2	1	2	2	6	14
61	歳			2	3		3	5	13
62	歳			3	4	1		5	13
63	歳	1	1	3	3	1	2	6	17
64	歳			2	1			1	4
65	歳								-
合計人員		1	5	19	38	50	69	481	663
平均年齢		63.0	55.0	59.2	55.1	52.0	48.8	42.1	44.9

## 6 消防団員勤続年数・階級状況

(平成31年4月1日現在)

年数別	階級別	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	計
	1 年未満								82
1 年								25	25
2 年								27	27
3 年							1	34	35
4 年								31	31
5 年							2	19	21
6 年						1	2	22	25
7 年							1	12	13
8 年							2	25	27
9 年							2	26	28
10 年					1	1	5	23	30
11 年						1	5	20	26
12 年				1		2	4	21	28
13 年					1	3	3	15	22
14 年				1	2	6	6	28	43
15 年						1	5	14	20
16 年				1	1	1	3	6	12
17 年					1	3	10	5	19
18 年						6	5	4	15
19 年					1	2	2	8	13
20 年						3	2	3	8
21 年				2	3	3	1	5	14
22 年				1	2	2		3	11
23 年					3	2		2	7
24 年				1	1	2	1	3	8
25 年				1	1	3	1	4	10
26 年				1	4		1	2	8
27 年				1	3	1		-	5
28 年					3	1		3	7
29 年		1			2		1	3	7
30 年以上			2	9	10	5	4	6	36
合計人員		1	5	19	38	50	69	481	663
平均勤続年数		29	26	25	25	19	15	8	11

## 7 消防団員出動状況

(平成30年度)

種別 分団名	計		火災等		風水害等 (捜査等含)		特別警戒 (年末警戒)		教養訓練		広報 (春・秋季)	
	回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員
団本部	62	118	44	47	3	18	5	6	10	47	0	0
佐古	51	344	20	163	3	19	5	58	9	48	14	56
東富田	45	264	15	105	3	27	5	40	8	36	14	56
西富田	45	329	14	136	3	26	5	57	9	54	14	56
昭和	37	202	8	43	3	26	5	34	7	43	14	56
渭東	52	327	20	116	3	30	5	67	10	58	14	56
沖洲	40	240	10	76	3	22	5	48	8	38	14	56
渭北	49	275	17	118	3	20	5	35	10	46	14	56
津田	40	283	8	56	3	62	5	35	10	74	14	56
加茂名	52	393	22	182	3	25	5	51	8	65	14	70
加茂	48	315	17	141	3	32	5	43	9	43	14	56
八万	48	457	17	160	3	57	5	47	9	95	14	98
勝占	51	678	19	325	3	78	5	86	10	91	14	98
多家良	44	610	12	259	3	70	5	54	10	87	14	140
不動	36	204	6	40	3	20	5	26	8	48	14	70
入田	33	263	3	32	3	22	5	61	8	78	14	70
上八万	38	335	6	62	3	35	5	77	10	91	14	70
川内	46	440	15	198	3	21	5	48	9	103	14	70
応神	38	290	6	67	3	18	5	51	10	84	14	70
国府	47	457	15	192	3	32	5	60	10	75	14	98
計	902	6824	294	2518	60	660	100	984	182	1304	266	1358

## 8 消防団員の訓練研修状況

(平成30年度)

区分 種別	項目	実施時間	延参加人員
学校教育	基礎教育	14 時間	6 人
	専科教育(機関科)	14 時間	6 人
	幹部教育(幹部科)	14 時間	3 人
	幹部教育(現場指揮課程)	14 時間	4 人
	計	56 時間	19 人
訓練等	水防訓練	1 時間	182 人
	実務訓練	延べ 36 時間	333 人
	新任団員訓練	3 時間	42 人
	危険物流出消防訓練	1 時間	20 人
	礼式訓練(出初式・年末警戒)	延べ 3 時間	160 人
	文化財消防訓練(瑠璃山 真福院 井戸寺)	1 時間	25 人
	林野火災消防訓練(眉山山頂駐車場付近山林)	1 時間	27 人
	計	46 時間	789 人
研修等	普通救命講習	延べ 6 時間	102 人
	S-KYT研修	3 時間	49 人
	上級救命講習	延べ 21 時間	56 人
	「地震・津波発生時の行動基準」研修会	延べ 19 時間	49 人
	消防団事務研修	2 時間	48 人
		時間	人
	計	51 時間	304 人

## 9 消防団員公務災害状況

区分		年度別				
		26	27	28	29	30
消防団員	火災現場		1		1	1
	救急現場					
	訓練中					
	作業中					
	その他					1
	小 計	-	1	-	1	2
消防協力者	火災現場	2	1			
	救急現場					
	訓練中					
	作業中					
	その他					
	小 計	2	1	-	-	-
合 計		2	2	-	1	2